



▲三線の演奏に合わせて踊る出演者

歌って踊って楽しい1日を満喫！

天草地区文化祭

11月17日、「第2回天草地区文化祭」が天草町大江のブルーアイランド天草体育館で開催され、約250人が来場しました。天草地区文化協会が、文化・芸術を通して住民の交流を深めようと実施しているもので、今年で2回目。ステージでは、地元の西海荒波太鼓の演奏をはじめ、各芸能クラブが歌や踊りを披露し、観客がいっしょに踊り出す場面もあり、大いににぎわいを見せていました。また、会場内では町内の小・中学校、高校の児童・生徒による絵画や書道などの展示やバザー、農産物・お菓子の即売会も行われました。

天草の石工の歴史を知って

天草石匠会が下浦町に石碑を設置

このほど、石工の里として知られる下浦町を通る国道266号沿いに、縦2m×横3mの石碑が設置されました。天草地域の石材業者で組織する「天草石匠会」が、昨年2月に開催された第20回下浦町ふるさと祭りを記念して製作したもの。

石碑は御影石製で、天草の石工の元祖とされる松室五郎佐衛門の絵などが彫られおり、絵のデザインは元本渡歴史民俗資料館館長の上中満さんが手がけられました。同会の角田新一会長は、「江戸時代から続く天草の石工の歴史と、高い技術力を知ってもらえたら」と話していました。



▲設置された石碑を囲む天草石匠会の皆さん



▲原田さんの指導のもと、しめ縄をつくる参加者

よい正月を迎えるために

宮田地区高齢者学級しめ縄づくり

12月4日、「宮田地区高齢者学級」が宮田公民館で開催され、しめ縄づくりが行われました。宮田地区振興会と同地区いきいきサロンが実施したもので、同地区振興会役員やえびす会の高齢者など約40人が参加。参加者は、同地区の原田輝司さんの指導のもと、7・5・3本のわらを縄に通したり、御幣をつけたりなど熱心に取り組んでいました。最後は、でき上がったしめ縄を手に「よか正月ば迎えられます」と笑顔で話していました。

全国豊かな海づくり大会に向けて

「第33回全国豊かな海づくり大会」プレイベント

本年10月26・27日に開かれる「第33回全国豊かな海づくり大会」のプレイベント（先行行事）が12月1日、牛深町の牛深漁港で行われました。同大会天草地域実行委員会が、大会の機運向上を図ろうと実施したもの。この日は、大会関係者や地元の小学校の児童など120人が参加し、マダイやヒラメ、イサキの稚魚約1,100匹を放流。児童たちは、「大きくなれ」などと元気な声をかけながら放流を楽しんでいました。同大会は、水産資源の保護や漁業振興などを目的に毎年、各県持ち回りで開催。本年は熊本県で開かれ、熊本市で記念式典が行われるほか天草（牛深町）、水俣、熊本の3市で放流事業が予定されています。



▲稚魚を放流する子どもたち

二江に芸術と食欲の季節がやってきた！

物産販売市ともちつき大会

12月9日、二江まちづくり振興会主催の「物産販売市ともちつき大会」が五和漁村センターで開催されました。地場産業の振興と地域住民に交流の場を提供し、地域の活性化を目的に「ふたえ冬の美術展『みんなのギャラリー 2012』」の期間中に実施しているもので、今年で3回目。会場では、二江特産の海藻や魚の干物などの物産販売市やバザーのほか、もちつき大会やもち投げも行われ、多くの来場者でにぎわっていました。



▲もち拾いを楽しむ来場者

一心不乱に竜の玉入れに挑む

竜の玉入れ選手権

11月23日、「第7回竜の玉入れ選手権」がしんわ楊貴妃祭りのイベントの一つとして、新和小学校体育館で行われました。競技は、1チーム6人で制限時間3分以内に高さ4.12m、直径44cmのカゴに、100個の玉を入れる早さを競うもの。当日は、県内外から24チームが参加し、選手たちは優勝賞金10万円を目ざして、真剣ながらも楽しんで玉を投げていました。優勝は、37秒99という驚異的なタイムを出した、阿蘇から参加した「あそモン」で、選手たちは「賞金は阿蘇の復興のために有意義に使います」と話していました。



▲カゴを目掛けて一心不乱に玉を投げる選手たち